

富士登山「来年こそは」

兄弟姉妹が小児がんになった経験がある子どもたちが参加するイベントは8月15日、オンラインで催された。例年は富士登山に挑戦する「富士山再生キャンペーン 富士山にアタック」をしてきたが、新型コロナウイルスの影響で登山はできなかつたため、キャンペーンの一端としてイベントが企画された。

幼児園児から社会人までの参加者11人が二つの班に分かれ、近況を語り合ったり、絵を描いたりして楽しんだ。富士山アタックは昨年までに19回行われており、参加経験のある子やスタッフが登山について語る場面もあった。茨城県筑西市の小学3年、三反崎礼佳さん(8)は「楽しかった。来年は富士山に登りたい」と話していた。

10年前に2歳上の兄を小児がんで亡くした山梨県南アルプス市の会社員、高遠愛さん(26)は8歳の頃から富士登山に参加。「経験していることに違いはあれど、きょうだいはいろいろな思いを抱えている」と明かす。中には親や周囲からの疎外感や将来への不安を感じている子もいる。「自分の気持ちを分かってもらえたり、同じ思いをしている人が他にもいることを共有できたりするのがとてもいい」と話し、今回のイベントについて「オンラインならではの難しさもあったが、『みんな元気そうだな』と感じた」と笑顔を見せた。

イベントは毎日新聞社とがんの子どもを守る会が主催。あいおいニッセイ同和損害保険、公益財団法人清心内海塾、毎日新聞東京社会事業団が協賛した。